

第1回文京区アカデミー推進協議会分科会(文化芸術分野) 議事要旨

日 時	平成27年6月3日(水) 18:30～20:30
会 場	文京シビックセンター3階大ホール会議室1
委 員	会 長 水越 伸 (東京大学教授) 委 員 高澤 芳郎 (シエナ・ウインド・オーケストラ 事務局長) 委 員 牧野 恒良 (公益社団法人宝生会 事務局長) 委 員 上田 武司 (文京区商店街連合会 副会長) 委 員 天野 亨 (文京区心身障害者福祉団体連合会 理事) 委 員 春田 孝二郎 (文京区高齢者クラブ連合会 副会長) 委 員 平井 宥慶 (文京区民生委員・児童委員協議会 会長) 委 員 三浦 徹 (中学校PTA連合会 理事) 委 員 柳澤 愈 (文京アカデミア学習推進関係委員会、文京区アカデミア 講座企画委員会 委員長) 委 員 塩見 美奈子 (文京区生涯学習サークル連絡会 会長) 委 員 松井 良泰 (公益財団法人文京アカデミー 事務局長)
欠 席	委 員 鈴木 秀昭 (東京商工会議所文京支部 事務局長)
事務局	山崎 克己(アカデミー推進部アカデミー推進課長) 矢部 裕二(アカデミー推進部アカデミー推進課文化事業係長) 川口 明代(アカデミー推進部アカデミー推進課文化資源担当室長)
(公財)文京アカデミー	上野 晶子 (アカデミー文京所長) 野苺家 貴之(アカデミー文京ホール事業係長) 支援事業者 株式会社創建 大谷
資 料	参加者名簿 指定管理者制度について 事業パンフレット等 平成27年度アカデミー推進計画進行管理表 平成26年度アカデミー推進計画取組状況結果

議 事

1. 開 会

2. 委員等紹介・進行の確認

委員による自己紹介を行った。

3. 議題

(1)アカデミー推進計画の文化芸術分野における平成26年度の進捗状況の評価

事務局より、「平成26年度アカデミー推進計画取組状況結果」および「事業パンフレット等」を用いて、平成26年度の事業の進捗状況について説明を行った。

天野委員
事務局 それぞれの催しや事業について、参加した人の反応は把握しているか。
文の京ゆかりの文化顕彰事業では、事業ごとに参加者にアンケートを取っており、8割以上が満足と回答している。展覧会などでも同様にアンケートを取っている。

事務局 財団では、コンサートの来場者にアンケートを取っている。アウトリーチでも参加者にアンケートを取っており、評判は良い。

高澤委員 当団でも、来場者にアンケートを取るようになっているが、こういったアンケートは、良いと思った人しか書かないものなので、あてにならないと考えている。本当は、どうかと思った人の意見が大切だと思う。

春田委員
事務局 各事業は、参加者がたくさんいて定員いっぱいになっているのか。
内容によって差はあるが、チケットが完売になっているものもある。

春田委員 以前、落語では1～2時間前から並ばないとチケットが取れないことがあった。

事務局 かなり前はそういうこともあったが、今は抽選になっている。

柳澤委員 「1 だれもが文化芸術に親しむことのできる機会の充実」は、いろいろな取組があり、付け加えるところがないと思った。協定締結都市というのはどういったところと結んでいるのか。

事務局 盛岡市、魚沼市、津和野市、北九州市、甲州市などと協定を結んでいる。甲州市は時間が空いたので、また取組をしていきたいと考えている。

柳澤委員 文京区は有名な都市なので、京都や金沢など、もっと有名な都市と関係を持ってよいのではないかと。

水越会長
事務局 文化による都市交流はお金がかかるように思うが、実際はどうか。
今交流しているところは、いずれも文京区に来ていただいているので、文京区としては、あまりお金はかからない。来る方は費用がかかっていると思う。

水越会長
事務局 なぜ来てくれるのか。
あちら側としては、東京の人に観光に来てほしいということで、PRの意図があると思う。

上田委員
事務局 学校との関わりはどのようなものがあるか。
ふるさと歴史館は、すべての区立小学校が見学に来ている。森鷗外記念館は、小学生には難しい。

上田委員
事務局 学校が行くのは有料なのか、高校はどうか。
小中学校は無料だが、高校は有料である（ふるさと歴史館は授業の場合は免除制度あり）。

上田委員 金沢市の話が出たが、商店街でも、石川県とつながりを持っているなど、いろいろなつきあいがある。

事務局 多くの自治体との関わりはあるが、文化的な関わりとなると、限られてくる。

三浦委員 区内の美術館などの施設が、月曜日が休みのものが多いが、自分のように月曜日が休みの人は、観に行くことができない。上野の方も同様である。

水越会長
三浦委員 休館日を変えるのは難しそうである。
誰もが文化芸術に親しむという視点では考えてもよいと思う。

事務局 施設の連絡会議をミューズネットで開いているので、そこに報告しておく。

三浦委員 休館日をずらせば、美術館の職員も休みに他の施設を観に行きやすくなる。

事務局 森鷗外記念館は、月曜定休でなく、不定休としている。

水越会長 森鷗外記念館の来館者の数はどうなっているか。

事務局 昨年は落ち込んだが、今年の4、5月は例年より多くの人 coming。

水越会長 いろいろなことを区ではやっているが、来られる人は来ていて、来られない人は来ていない。固定客が多く、その数は減ってきているという話もある。また、観賞している人は多くても、やっている人は少ない。ある程度の数の人がやっている必要はあると思う。

春田委員 観賞をしているのなら、それでいいということにはならないか。

上田委員 文京朝顔・ほおずき市として、変化朝顔づくりを40人ぐらいでやっている。区報に掲載して展示をしたら多くの人興味を持ってくれた。

天野委員 障害がある人が参加するのは難しい。視覚障害には情報を伝えること、聴覚障害者には手話をつけることなどがどこまでできるか。史跡めぐりも、車イスで行けるかどうかなど、対応を考えてほしい。

水越会長 情報発信については、様々なチラシやビラ、ポスターが作られている。それぞれ味のあるものだが、こういったものの一覧はほしい。ただし、全体をきれいなホームページにしても、それを見てもらわないと意味がない。

春田委員 スクエアは、いろいろなことが載っていて、自分の関心がなかったことも目にするのができてよいと思う。

水越会長 情報発信については、前回、横断的なところに入れて説明している。情報が電子化されてまとまってしまうと、人は関心があるものしか見なくなってしまう。新聞やスクエアのようなアナログメディアは重要である。

柳澤委員 大ホールや小ホールについての催しの情報はすぐにわかるが、ギャラリーシビックは、そこに行かないとわからない。

松井委員 注釈:展示室についても、文京アカデミーのホームページで表示している。個人的な催しもあり、一般の人に来てもらっては困るものもあり、また、大ホール小ホールについては、貸館による借り手の意向で表示しないものもある。

三浦委員 ホームページでも、紙媒体のように、他の情報も同時に掲載できるようになるような形にできるとよい。

水越会長 ホームページの作り込みは、予算と人が重要である。現場の職員ではとてもできないので、学生を活用するなどの工夫が必要である。今の体制では人手が足りない。

柳澤委員 情報発信をするための組織があるとよいのでは。

水越会長 ボランティアで、区民レポーターを活用することも考えられる。3枚目で70周年記念区史編纂事業が出ているが、60年の時にはこの話はなかったのか。

事務局 その時は、話が出るのが遅かったので、間に合わないという判断をした。

水越会長 重いものになるのか。ホームページにも載せるのか。

事務局 あまり重いと読んでもらえないので、工夫をしたい。

春田委員	どのような形で配られるのか。
事務局	販売する形にはなる。
三浦委員	去年ぐらいに似たものをみた気がするが。
事務局	それは民間事業者が作ったものなので、区のものとは異なる。
水越会長	できれば、読み聞かせのようなものができる面白い。
事務局	合わせて企画展などできるとよい。
天野委員	視覚障害者にも配慮したものにしてほしい。
上田委員	作業はどれくらい進んでいるのか。
事務局	ある程度進んでいる。今は写真を集めているところだがなかなか集まらない。
三浦委員	募集しているが。
柳澤委員	ここは区史だけか。人づくりも入るのか。
事務局	含まれると考えてよい。
塩見委員	歴史的な資源の発掘が重要だが、そのための予算がついていないために、文京区ではどんどんなくなってしまっている。
事務局	旧伊勢屋質店が最近ではあるが、もっと主体的にできないかと考えている。
塩見委員	登録文化財も、持ち主がやめると、なくなってしまう。
水越会長	次の計画ではなんらか盛り込みたい。
塩見委員	40数年街歩きの案内をしているが、看板しか残っていないと、また来てくれない。建物を残していけるようにしてほしい。
柳澤委員	文化財の保存も推進計画に入るのか。
事務局	文化財の保護は教育委員会になるが、活用なら推進計画で扱える。
上田委員	これからも夏目漱石などいろいろな文豪を紹介していつてはどうか。森鷗外だけでなく。
水越会長	人をどう育てるかを考えたい。インタープリターになる人、文化を楽しむ人が増えるとよい。
柳澤委員	継続的な取組が重要である。
水越会長	文化芸術では、それが特に重要である。
事務局	アウトリーチでは、文化芸術を楽しむ人を増やす意識で行っている。それが将来はお客様になって、支える側を増やすことにもつながる。
三浦委員	キャンパスというのは、大学の横の連携だけでなく、小中高といった縦をつなげることが重要である。プロが教えてくれるような機会も大切。
水越会長	リンクを作るのは難しい。大学も高大連携をしているが、中大も考えられる。小学校までは習い事でいろいろやっても、中学校に行くとやめてしまい、いきなり55歳ぐらいになってはじめるということになっている。
松井委員	今回のアンケートでも、忙しくてできないという意見があった。
三浦委員	第六中学校では、東大と連携している。
水越会長	評価としての議論はこのあたりにして、事務局にまとめてもらい、それをここでまた確認することとする。

(2) 文京区の特徴や課題について

ワークショップ形式により、文京区における文化芸術における特徴や課題について意見を出し合った。主な意見は以下のとおりである。

●特徴

- ・文人、文化人
- ・シエナ・ウインド・オーケストラ
- ・東京フィル
- ・鼓童
- ・歴史的建造物、古い建物
- ・坂道、坂の名前
- ・ミュージアネットの施設
- ・能、能楽師

●課題

- ・後継者不足
- ・人材の高齢化、固定化
- ・若者の参加が少ない
- ・参加者の固定化
- ・情報発信
- ・財源
- ・多様な障害者への対応(視覚、聴覚、車いすなど)

●今後の方向性

- ・生涯学習サークル、社会教育登録団体との連携
- ・プロデュース人材、支援者の育成
- ・新しいメディアの活用
- ・若者の興味をひく分野とのタイアップ

4. 閉会

以上